はじめに

日本公衆衛生学会では平成１２年２０月１８-２０日、第５９回 日本公衆衛生学会総会ならびに諸行事を群馬県で開催し、盛会裡に無事終了することができましたことをここにご報告し、開催にご尽力ご支援を頂きました関係各位に対し、開催側を代表して心からお礼を申し上げます。

第５９回 日本公衆衛生学会総会の「まとめ」は、本誌３月号にご報告した通りです。今総会ではほぼ例年にならった特別講演、シンポジウム、教育講演、奨励賞講演、自由集会を行い、一般発表1,269題は全てポスター発表として行いました。参加者は、3,724人でした。これらの詳細は本誌の３月号に所収されております。

今学会は、丁度2000年の節目の年に当ったので、中心テーマを「温故知新」としてそれぞれの分野で「過去を省み智恵を得て新しい世紀を熟慮断行して頂くこと」を期待致しました。

新しい試みとして、1977(昭和 52)年までは行われていた一般発表の「座長のまとめ」を復活させ、発表演題に関連して、保健・医療・福祉・介護の政策=施策=事業の各レベルでの問題点の指摘と改善提案をまとめとして頂き、公表することにしました。その理由は、公衆衛生学会の最大の特徴は、健康政策 health policy に最もかかわりの深い学会であり、行政の政策提言をするところにあると考えるからです。

また、ポスター発表の座長には、優れていると思われるものに投票をお願いしました。その結果３９題の「優秀ポスター賞」が選出、決定されました。本誌の３月号に選考方法と結果を発表しました。展示された全てのポスターを撮影しましたが、入賞ポスターの内容は「なるほど」とうなずける優秀作、労作、必要課題作がほとんどでした。

お約束通り、ポスター発表の「座長のまとめ」を編集し、本誌の臨時増刊号としてここにお届け致します。ご了承頂いた本学会理事会と編集委員会にお礼を申し上げます。

誌面にゆとりがありましたので、特別講演　II「老年の健康を決定するもの」(ミシガン大学 カプラン教授) の通訳/解説部分をテープ起しして、スライドも加えて編集しました。このテーマは我が国の今後の健康日本21の推進などで役立つと考えたためです。

最後に学会長として、学会員参加者各位、群馬県知事、前橋市長、群馬県医師会、前橋市医師会、全国/群馬県下各種団体/会社、群馬大学長/医学部長を初め、日本公衆衛生協会、群大医公衆衛生学教室同門会、実行委員/学術部会委員、学会事務担当各位、３月号の学会のまとめ担当者および臨時増刊号の編集担当者各位に厚くお礼を申し上げます。

２００１(平成１３)年２月２８日

第５９回 日本公衆衛生学会長
鈴木 庄亮